



Kaiho. anzen

発行:大日本土木安全協力会
東京都新宿区西新宿6-16-6
☎(03)5326-3772(直通)

令和5年4月

No.139

全国安全週間

2023年7月1日▶7日

準備期間 6月1日▶30日

見逃すな 潜む危険とルール無視
手順を守ってゼロ災害

最優秀賞 株式会社クボタ建設 岡田充弘 作品



「言っただつもり」「わかつたつもり」
つもり積もって事故を呼ぶ

最優秀賞 中日本支社 古田哲志 作品

最優秀賞 「その慢心ちょっと待って!!」
株式会社ナミト 飯田あゆ美 作品



CONTENTS

◇ 「名誉会長 退任のご挨拶」	
大日本土木株式会社 代表取締役 櫻井俊介	…… 2
◇ 「2023年度安全衛生管理活動推進に向けて」	
大日本土木安全協会 名誉会長 竹田勝一	…… 3
(大日本土木(株) 取締役 常務執行役員)	
◇ 「新事業年度を迎えて」	
大日本土木安全協会 会長 佐々木邦衛	…… 4
(児玉建設(株) 代表取締役)	
東京支部長 藤澤徹	…… 5
((株)森田組 代表取締役)	
名古屋支部長 森屋泰則	…… 6
(株)森屋製作所 代表取締役)	
大阪支部長 山川数也	…… 7
(株)山川 代表取締役社長)	
◇ 2023年度 安全衛生管理計画(抜粋)	…… 8
◇ 2023年度 環境安全衛生行事計画表	…… 11
◇ 2022年度 安全衛生・環境 論文、ポスター、標語入選作品	…… 12
◇ 受賞作品集 安全衛生論文 <優秀賞>	…… 14
環境論文 <最優秀賞>	…… 15
安全衛生・環境ポスター<最優秀賞>	…… 16
<優秀賞><優良賞>	…… 18
◇ 本部だより	…… 20
◇ 支部だより <東京支部・名古屋支部・大阪支部>	…… 22
◇ 大日本土木安全協会 本部役員名簿(2023年4月1日現在)	…… 26
◇ 付録 CCUS 建設キャリアアップシステム	…… 27



名誉会長 退任のご挨拶

大日本土木株式会社
代表取締役 櫻井 俊介

(令和3年度・令和4年度 名誉会長)

ご安全に！

平素より当社の作業所安全衛生管理活動について、ご協力とご支援を賜り、また安全協力会の活動におきましても格別のご尽力を頂きましたこと篤く御礼申し上げます。

わたしは2021年度、2022年度と2年間を安全協力会名誉会長として、皆様とご一緒させて頂きました。

着任以来、コロナウイルスの蔓延や建設資材の価格高騰、建設機材納期の長期化等の建設業を取り巻く環境も変化が著しく、本来の安全衛生管理活動に集中できない期間でもあったかと思えます。当社の安全管理活動の重点項目も、令和3年度は飛来落下災害の防止や第三者災害の発生防止、そして令和4年度はJV-Subの災害発生防止と重機の転倒災害防止など新たな課題も発生しています。公衆災害や火災などにも更なる配慮が必要になるなど課題はまだまだ沢山あります。

建設業は、国の施策であるCCUSと現場のIT化による生産性の向上、働き方改革など継続的に推進すべき課題も沢山あります。特に労働時間の改善については来春まで残りの時間も少なくなっています。作業所閉所の拡大など今後さらに安全協力会の皆様と意見交換しながら一緒に進めていかなければなりません。

今年度からは、これまで制約のあった安全大会や安全祈願等の安全衛生管理活動が、元の通りに継続できるよう次年度につなげることを切望しています。そして、次の世代の人材育成にしっかりと取り組んで下さい。

当社と安全協力会の皆様が「安心をつくり続ける」の企業理念のもと、共に知恵と経験を出し合うことで厳しい環境下でも成長していくことを願っております。

2年間にわたり大変お世話になりありがとうございました。

ご安全に！



櫻井名誉会長 活動の記録





2023年度安全衛生管理活動推進に向けて

大日本土木安全協力会
名誉会長 竹田 勝一

(大日本土木株式会社 取締役 常務執行役員)

ご安全に！

この度、大日本土木安全協力会名誉会長を務めさせて頂くこととなりました。安全協力会会員の皆様のご協力、ご支援を賜りながら全力で安全衛生管理活動を推進したいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、安全協力会会員の皆様にかかれましては、平素より弊社の安全衛生管理活動に積極的に取り組んで頂いていることに、厚く御礼申し上げます。

さて、建設業界は、ウクライナでの戦争、円安、インフレ、それらに伴う建設費の高騰、人手不足、働き方改革等の多くの課題を抱えています。数々のアゲインストの風が吹く中で、企業としての事業活動に悪影響を及ぼす災害や環境・品質トラブルの撲滅は、我々にとって最優先課題であることは言うまでもありません。

昨年度の安全成績ですが、J Vサブ・海外も含めた全店で32件の災害が発生しています。一昨年度が38件ですので、ほぼ同等の成績です。また、昨年度は残念ながらJ Vサブ現場でダンプに引かれる死亡災害が発生しています。一昨年度、海外で同様にダンプに引かれて死亡災害が発生したこともあり、二度と起こさないようにルールを徹底したところですが類似の死亡災害が発生してしまったことは残念でなりません。その他にもクレーン災害、公衆災害、J Vサブでの災害が繰り返して発生しています。

当社は、「安心をつくり続ける」を企業理念として掲げています。今年度もこの理念の下、信頼に応える安定した企業経営を続け、確かな技術と品質で安心な暮らしを支える事業活動を行います。

安全目標は、昨年度と変わらず、「死亡・重篤・公衆災害 ゼロ」を掲げています。特に、墜落・落下災害、建設機械・クレーン災害、崩壊・倒壊災害、公衆災害は過去に大きな災害となっており、重点管理事項として取り組みます。

衛生目標についても、前年同様に「疾病労災 ゼロ」を掲げ、重点項目として作業環境の整備・改善、働き方改革の推進に取り組みます。特に働き方改革は来年度から時間外労働の上限規制が適用され待ったなしの状況です。CCUSの継続普及と共にご理解をお願い致します。

当社と安全協力会の皆様が協力し、一丸となって取り組まないと目標達成は難しいと考えています。大日本土木は安全協力会の皆様と共にあります。お互いの会社のため、社員の方々のためにも、会員各位の皆様と共にゼロ災を目指したいと思っております。

今年度もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

ご安全に！



新事業年度を迎えて

大日本土木安全協力会本部
本部会長 佐々木 邦衛
(児玉建設株式会社 代表取締役)

ご安全に！

新事業年度に当たり、安全協力会会員の皆様には、日頃より本部及び各支部の安全協力会の事業計画、並びに労働災害防止活動に、ご尽力とご協力を賜っておりますこと、心より御礼と敬意を表する次第でございます

ここ数年「コロナ禍」での活動と言うことで、計画通り十分な活動が出来ず、大変残念に思いますが、それもやっと下火になったように思います。今年度はこれまで、自粛や制限されていた行動も、再び従来同様の活動ができる環境になると期待しております。会員の皆様には、是非今後の事業活動に変わらぬご支援ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

昨年度の安全成績（労働災害・公衆災害・第三者災害）は、不休も含めた労働災害（JV サブ除く）は、東日本（3件）中日本（6件）西日本（8件）海外（3件）、公衆災害は全体で13件と残念ながら多数起きているのが現状であり、深く反省し、今後の活動方法などを考えなければなりません。

我々の建設業界も人手不足は否めず、高齢者や未経験者、外国人労働者に頼らなければならないのが現状です。実行性のある安全管理のもと「全員参加の先取安全」を掲げ、難しい事ではありますが無事故無災害に向かって、会員各社のご支援ご協力を是非ともよろしく願いいたします。

最後になりますが、大日本土木株式会社の益々のご隆盛とご繁栄、「コロナ禍」の収束と無事故無災害をご祈念し新事業年度へのご挨拶とさせていただきます。

ご安全に！



新事業年度を迎えて

大日本土木安全協力会
東京支部長 藤澤 徹
(株式会社 森田組 代表取締役)

ご安全に！

新事業年度を迎えるにあたり、安全協力会会員の皆様には、大日本土木安全協力会東京支部の事業計画ならびに労働災害防止活動の運営に、日頃から格別なご支援とご協力を賜り、ここに厚く御礼と敬意を表しますと共に、今年度もよろしくご支援とご協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

まず、安全成績についてご報告をさせていただきます。昨年度は、土木作業所で不休災害1件、建築作業所で不休災害1件、休業4日以上災害1件が発生致しました。休業4日以上災害については、人間の特性（場面行動）の一つである咄嗟の行動が災害に繋がりました。

共に作業している仲間同士で、合図も掛け合っていたのですが、咄嗟に手を出し、指を切断するという痛ましい災害に繋がりました。

人間の特性でもある咄嗟の行動を防ぐのは容易ではありません。皆さんも「スマホを落としそうになり、手を出して指を机に打ち付けた」様な事があるのでは無いでしょうか？

こういった災害を防ぐには、設備面で本質安全化を図らなければなりません。人が間違っ て手を出した場合や、機械に挟まれそうになった場合、安全側に自動停止してくれる装置です。建設業ではまだまだ整備が遅れていますが、今後はITやAIを導入して、新たな安全設備が整備されていくものと期待しております。（重機との接触防止センサーなど実用化されている物も多くあります）

建設業界を取り巻く情勢としましては、今後、老朽化した施設のリニューアル工事が増える事が見込まれています。バブル期に建設された施設の改修、橋やトンネル等に関しては建設後50年を経過したものも少なくありません。このような工事が見込まれる建設業界においては、大きく3つの問題を抱えていると思います。

1つ目は利益率の低下です。現在、原材料費、燃料費等の高騰が見込まれており、当初見込んでいた利益が確保できない工事が多く出てくるのではないのでしょうか。

2つ目は人材不足です。特に若年層の働き手を何としても確保しなければ、ものづくりが出来なくなると思われます。これから求められる人材像は、与えられた役割に対して強い責任感を持って対応できる人と、大勢の仲間との協同作業においてコミュニケーション能力を備えた人材が大切ではないかと考えております。

3つ目は働き方改革です。2024年4月1日から建設業界でも時間外労働の上限規制が適用されます。これには何としても対応していかなければなりません。その為には、建設DXやBIM、CIM等のIT化への一層の取組が求められると思われます。グリーンサイトや、Buildeeに対応していく事も重要だと思われます。

安全協力会としましては、店社と協同し、これらに適切に対応が図れるよう、取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりますが、新事業年度を迎え、会員の皆様におかれましては、より一層の安全衛生活動を充実させ、災害のない安全・安心な職場にして頂き、会員皆様の益々のご繁栄を祈念申し上げます。

ご安全に！



新事業年度を迎えて

大日本土木安全協力会
名古屋支部長 森屋 泰則
(株式会社 森屋製作所 代表取締役)

ご安全に！

名古屋支部の会員皆様には、事業運営並びに労働災害防止活動に日頃からのご支援を頂いております事、ここに厚く敬意を表しますとともに本年度も引き続きのご協力の程をお願い申し上げます。

長い間、新型コロナウイルスに翻弄されてきましたが、ようやく3年前の日常に戻れてきたように思われます。会員皆様に於いても感染されたり濃厚接触者になったりして不安な日常を送った3年間ではなかったでしょうか。安全協力会も同様に不安かつ不十分な活動を強制させられた3年間でありましたが、アフターコロナ元年である今年度からは以前のような積極的な活動を目指していきたいと思います。

さて、名古屋支部の2022年度安全成績は一昨年と比べて大きく改善しました。これは前年の結果を謙虚に反省して、大日本土木社員様と協力会社作業員様が一致団結した努力の賜物であると思ひ、大きく感謝申し上げます。しかしながら反省すべき点もありました。物損事故や公衆災害が目立った印象が有ります。それらの事故は事前に予測がつく事故ばかりで十分に検討・対策が行われていれば未然に防ぐことが出来た案件だと反省しています。今年度もこれらの結果を検証して今年こそは「ゼロ災」を達成したいと思ひますので会員皆様の引き続きのご協力をお願い致します。

2022年度の大きな活動としては夏場の熱中症対策に予算を費やしました。塩ビタミンゼリーを各現場に配布したり、日よけ用のテントを多数用意させていただきました。これらが功を奏したかは定かではありませんが熱中症も少なかったと思ひます。今年も同様な活動を昨年より大きく展開していきたいと思ひます。さらにパトロール回数を増やして現場作業員様の要望に耳を傾け、本当に必要な支援を行っていきたいと思ひますのでご意見があれば遠慮なくお申し付けください。

今年度、前向きに啓蒙活動していききたいことにDXの推進が有ります。「グリーンサイト」「CCUS」「Buildee」といった建設業ならではのDXをニュースタンダードと位置付け、会員皆様に周知・導入することで人手不足・作業時間の短縮といった問題を一緒に解決していきたいと思ひます。安全協力会も啓蒙するだけでなく費用面などで具体的に協力できるよう取り組んで参ります。

最後になりますが、安全・安心とは何かという基本的な事を再度、大日本土木様と安全協力会が真摯に議論を交わし、積極的に「ゼロ災」に取り組んで参ります。今まで以上に皆様のご指導・ご協力をお願いして新年度の挨拶と致します。

ご安全に！



新事業年度を迎えて

大日本土木安全協力会
大阪支部長 山川 数也
(株式会社 山川 代表取締役社長)

ご安全に！

新事業年度を迎えるにあたり、大阪支部会員の皆様には、日頃より大日本土木安全協力会大阪支部の事業運営、労働災害防止活動にご支援を賜り、ここに厚く御礼と敬意を表しますと共に、本年度も引き続きご支援、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

令和5年度、新事業年度が動き出しました。2019年12月に中国から新型コロナウイルスが報告されて、約40カ月が過ぎようとしています。日本での新型ウイルスの累計感染者数は3,300万人、死亡者数7万2千人に上っています。今後の感染状況については、地域差や不確実性があるものの、全国的に減少傾向が続くことが見込まれていますが、依然として予断を許さない状況です。世界では、2022年2月にロシアのウクライナ侵攻から1年が経ちいまだ激しい戦闘が続き多くの犠牲と被害が出ています。世界中に大きな影響を与えています。

2023年建設業界はどのように変わっていくのでしょうか。まずは、2019年4月に労働基準法の改正に伴い、労働時間の上限が規制されました。2024年4月より完全運用されます。ただし、災害復旧や復興事業に従事する場合は上限規制が除外される特例もあります。次に材料の高騰です。ロシア・ウクライナ情勢も含めた、世界的材料不足による影響が出ています。そして人手不足です。建設業界を若者に人気がある仕事にするために労働環境を改善してイメージアップに繋げなければなりません。

建設業における労働災害状況をみますと、平成元年の死傷者数63,800人、死亡者数1017人で、令和3年には死傷者数16,000人で25%に減少し、死亡者数においては、288人で28%に減少しています。依然、墜落・転落災害による死亡災害は減少しません。2022年1月2日から墜落制止用器具（フル・ハーネス型）を着用するように政令が改正されました。墜落制止用器具の確実な使用を実施し重篤災害、死亡災害を発生させない様にしなければならないと思います。大日本土木(株)西日本支社の令和4年度の災害発生状況は、土木2件、建築3件の発生件数です。幸いに大きな災害にならずに済んだのも会員の皆様の日頃からの安全管理に対する意識の向上と自社の自主的なパトロールの成果だと思えます。建設業における労働災害防止の主役は、事業者と現場で働く皆さんです。現場で事故を発生させない強い気持ちと、法令遵守、仕事場の仲間を守り、自分を守って無事工事を完工していただきたいと思えます。

最後になりますが、新事業年度を迎え、会員の皆様におかれましては、より一層の安全衛生活動を充実させ、災害のない職場にして頂き、会員各社の益々のご繁栄を祈念申し上げます。ご安全に！

ご安全に！

2023年度 安全衛生管理計画（抜粋）

安全衛生目標

安全目標 死亡・重篤・公衆災害 ゼロ

- 墜落・転落災害の防止
- 建設機械・クレーン災害の防止
- 崩壊・倒壊災害の防止
- 飛来落下災害の防止

衛生目標 疾病労災 ゼロ

- 作業環境の整備・改善
(新型コロナウイルス感染症予防対策、熱中症予防対策等)
- 働き方改革の推進

重点管理事項を実施するための具体的な内容

関係協力会社と協働して災害事故防止活動に取り組み、ライントップが率先垂範して実効性のある指導・確認・支援を行い、以下に示す重点管理事項について全員の力を結集して取り組む

1. 元方事業者管理の確実な実施

(1) 店社における安全衛生管理

- 1) ラインとスタッフの連携を密にし、安全衛生委員会、所長会、勉強会等活発に行い安全衛生管理活動の推進
- 2) 店社管理職による安全衛生パトロール、監査等、作業所支援指導の継続的な実施
- 3) 施工計画の事前審査、特に足場計画（10m以上すべて）の店社確認の徹底

(2) 作業所における安全衛生管理

1) 作業所長の確実な統括管理の遂行

- ① 労働安全衛生法、社内基準に則した作業所ルールの確立と周知徹底
- ② 安全管理の3原則（整理整頓・事前打合・現場点検）の推進
- ③ 指定危険作業、予定外・非定常作業時における事前打ち合わせの徹底
- ④ 作業手順書周知会の指導確認
- ⑤ 建設キャリアアップシステム、グリーンサイトを活用した労務管理

2) 墜落・転落災害の防止

- ① 墜落制止用器具の適切な装着、確実な使用の徹底
- ② 足場、開口部、作業床（端部）からの墜落防止設備の先行設置確認
- ③ 開口部・スラブ端部の養生計画、実施状況の確認
- ④ 足場管理体制図の確実な運用

3) 建設機械・クレーン災害の防止

- ① クレーンの転倒事故防止
クレーン作業計画を遵守、過負荷防止・巻過防止等の安全装置を有効に保持、定格荷重を超える荷重をかけて使用しない
- ② 立入禁止、接触防止措置の確認
重機作業計画による機種を選定・設置地盤の事前確認・資格の確認、指揮命令系統の明確化)
- ③ 「バックホウ作業においては原則後退禁止」、「それ以外の重機作業では誘導合図なしでバックしない」の周知徹底
- ④ 重機作業における死角体験教育・誘導訓練教育等の実施

4) 崩壊・倒壊災害の防止

(土止め支保工・型枠支保工・解体作業・はい作業・足場)

- ① 解体工事における施工検討会の実施
事前調査に基づく解体工法・作業順序・控えの設置方法等、リスク低減措置を盛り込んだ施工計画及び作業手順の作成・実施の徹底
- ② 緊急・異常時体制の確立及び教育・訓練の実施
- ③ 地盤の事前調査、掘削法面作業は作業開始前点検の励行

5) 飛来落下災害の防止

- ① 工具や資材を落下させないための事前防護
落下防止ネットや工具落下防止ロープ等を活用し、万が一落とすようなことがあっても下面まで落下させない
- ② 上下作業の禁止、立入禁止区域の設定
作業手順の事前打合せ、朝礼等で関係者に周知
- ③ 強風による資材などの飛散防止
安全コーンや看板等は確実に固定

6) 公衆災害等防止

- ① 周辺状況（地盤、埋設物、架空線、近接構造物、飛来・落下物等）の事前調査と災害防止対策の作成・実施
- ② 第三者災害防止対策の実施状況確認（作業区画境界、特に出入口）
- ③ 交通事故防止のための指導・確認

7) ヒューマンエラー、不安全行動に起因する災害防止

- ① 6S運動「整理・整頓・清潔・清掃・しつけ・しつこく」の推進
- ② 労働災害事例教育、ヒヤリハットの情報共有による労働災害要因排除
・作業手順の改善
・安全設備の充実
・見える化

2. 協力会社の自主管理能力の向上促進

(1) 事業者責任の遂行

- 1) 作業所安全衛生活動の積極的参加
- 2) 作業所で決められたルール、安全指示の遵守
- 3) 当該作業所に合致した確実な送り出し教育の実施

(2) 安全施工サイクル活動の展開

- 1) KYミーティングにおける安全唱和の実施
- 2) 不安全行動排除のため、一声かけ運動、一人KY、現地KY、ヒヤリハット、グーパー運動の積極的推進（コミュニケーションの充実）
- 3) 保護具の完全着装の実施（ルールを守らない者に対する再教育の実施）
- 4) 指定危険作業の事前打合せの実施

(3) リスクアセスメント（危険性又は有害性等の調査）を取り入れた安全作業手順の作成・周知（特に、指定危険作業）

(4) 非定常・予定外作業（作業内容変更時等）の教育等安全管理の徹底

(5) 再下請負人の管理

- 1) 再下請負人の適正な選定、単独作業にならない配置と管理指導（指示伝達事項の確実な周知徹底）
- 2) 二次以降協力会社の安全衛生・環境管理協議会の参加
- 3) 社会保険未加入事業者の排除
- 4) グリーンサイトを活用した労務管理の実施
- 5) 建設キャリアアップシステム技能者登録の推進と就業履歴の確実な蓄積

(6) 職長会の充実

(7) 労災上積み保険の加入促進

(8) 安全協力会、パートナー会の活動推進

2023年度 環境安全衛生行事計画表

(2023. 4. 1～2024. 3. 31)

所属 月	本 社	支 社 ・ 支 店	作 業 所
4	安全祈願 本社安全衛生委員会 本社品質保証・環境保全委員会	安全祈願 支社・支店安全衛生委員会（毎月） 支社・支店品質保証・環境保全委員会	安全祈願
5	春の全国交通安全運動(5/11～20)	春の全国交通安全運動(5/11～20)	春の全国交通安全運動(5/11～20)
6	全国安全週間準備期間(6/1～30) 日建連 災害防止対策特別活動(6/1～30) 環境月間(6/1～30) 安全衛生大会 中日本支社 (6/9) 東日本支社・海外支店 (6/15) 西日本支社 (6/22)	全国安全週間準備期間(6/1～30) 日建連 災害防止対策特別活動(6/1～30) 環境月間(6/1～30) 安全衛生大会 中日本支社 (6/9) 東日本支社・海外支店 (6/15) 西日本支社 (6/22)	全国安全週間準備期間(6/1～30) 日建連 災害防止対策特別活動(6/1～30) 環境月間(6/1～30) 安全衛生大会 中日本支社 (6/9) 東日本支社・海外支店 (6/15) 西日本支社 (6/22)
7	全国安全週間(7/1～7)	全国安全週間(7/1～7)	全国安全週間(7/1～7)
8	電気使用安全月間(8/1～31)	電気使用安全月間(8/1～31)	電気使用安全月間(8/1～31)
9	全国労働衛生週間準備期間(9/1～30) 防災の日(9/1) 秋の全国交通安全運動(9/21～30)	全国労働衛生週間準備期間(9/1～30) 防災の日(9/1) 秋の全国交通安全運動(9/21～30)	全国労働衛生週間準備期間(9/1～30) 防災の日(9/1) 秋の全国交通安全運動(9/21～30)
10	全国労働衛生週間(10/1～7) 3R推進月間(10/1～10/31) 本社安全衛生委員会 本社品質保証・環境保全委員会	全国労働衛生週間(10/1～7) 3R推進月間(10/1～10/31) 全国建設業労働災害防止大会(金沢) 10/6～7	全国労働衛生週間(10/1～7) 3R推進月間(10/1～10/31)
11	秋の全国火災予防運動(11/9～15)	秋の全国火災予防運動(11/9～15)	秋の全国火災予防運動(11/9～15)
12	年末年始労働災害防止強調期間(12/1～1/15)	年末年始労働災害防止強調期間(12/1～1/15)	年末年始労働災害防止強調期間(12/1～1/15)
1	安全祈願 年末年始労働災害防止強調期間(12/1～1/15)	安全祈願 年末年始労働災害防止強調期間(12/1～1/15) 支社・支店コスモスMR	安全祈願 年末年始労働災害防止強調期間(12/1～1/15)
2	本社安全衛生委員会 本社品質保証・環境保全委員会 社長MR		
3	年度末労働災害防止強調月間(3/1～31) 春の全国火災予防運動(3/1～7)	年度末労働災害防止強調月間(3/1～31) 春の全国火災予防運動(3/1～7)	年度末労働災害防止強調月間(3/1～31) 春の全国火災予防運動(3/1～7)
随時	本社安全衛生パトロール 社員教育、健康診断 安全論文・標語等募集 社外研修、渉外業務	安全衛生パトロール、ライン監査 社員教育、健康診断 社外研修、渉外業務	安全祈願祭 安全衛生・環境管理協議会 安全衛生大会、職長会 健康診断

2022年度『安全衛生』論文、ポスター、標語 入選作品

『論文』

区 分	会社名	店	所 属	氏 名	タ イ ト ル
優秀	大日本土木(株)	西日本	北急箕面高架	小林 雄一	現場環境と6S運動
優良	大日本土木(株)	中日本	地整北勢坂部T	友松 裕貴	無事故無災害を実現するために

『ポスター』

区 分	会社名	店	所 属	氏 名	タ イ ト ル
最優秀	(株)ナミト	中日本	UR美浜町整備	飯田 あゆ美	その慢心ちょっと待って！！
優秀	大日本土木(株)	西日本	新仁会病院	鶴飼 真行	安全パラレルワールド
優良	大日本土木(株)	中日本	地整北勢坂部T	中才 麻理亜	安全第一

『標語』

区 分	会社名	店	所 属	氏 名	標 語
最優秀	大日本土木(株)	中日本	岐阜川上2号T	古田 哲志	「言ったつもり」「わかったつもり」 つもり積もって事故を呼ぶ
最優秀	(株)クボタ建設	西日本	堺家原寺配水	岡田 充弘	見逃すな 潜む危険とルール無視 手順を守ってゼロ災害
優良	大日本土木(株)	中日本	岐市市橋推進	加藤 力三	安全管理と健康管理 目指す思いは二刀流

2022年度『環境』論文、ポスター、標語 入選作品

『論文』

区 分	会社名	店	所 属	氏 名	タ イ ト ル
最優秀	大日本土木(株)	中日本	岐阜庁舎外構	守山 雅司	COOL CHOICE
優秀	大日本土木(株)	西日本	堺家原寺配水	児玉 愛理	廃棄物の減量化—ごみの分別の利点—
優良	大日本土木(株)	東日本	綾瀬造成	牟田 智瑛	世代間においての 「共通だが差異ある責任」

『ポスター』

区 分	会社名	店	所 属	氏 名	タ イ ト ル
最優秀	大日本土木(株)	海 外	タジク道路	今関 朔 (阿南 正典 家族)	みんなもすぐできる省エネ
優秀	大日本土木(株)	東日本	西谷浄水場	中村 菜々美 (中村 敦 家族)	守りたい命を育くむ星
優良	大日本土木(株)	東日本	環境安全品質部	仁木 由利子	ゴミは小さく少なく！ やればできる！

『標語』

区 分	会社名	店	所 属	氏 名	標 語
最優秀	大日本土木(株)	中日本	岐阜川上2号T	古田 哲志	一人の意識が 世界を変える 私が始める 最初の一步
優秀	大日本土木(株)	東日本	安部郡山工場	河村 亮汰	節電で 明るく照らせる 地球の未来
優良	大日本土木(株)	中日本	UR美浜町整備	中西 昭義	スイッチオフ 指一本の行動力
優良	(株)東京サンセット	東日本	烏山下水	佐藤 薫	ビンに缶 混ぜて 捨てない 敏感に

現場環境と6S運動

西日本支社 土木工事事部 小林 雄一

現場の先輩技術者や上位者の方、職人さん等と話をさせていただいている際に事故の起こった現場の話題になることがある。その際に、事故が発生した現場に行ったことがある方、その現場で従事していた方からよく聞く言葉の中に「現場を見れば事故を起こすかどうか分かる。」「あの現場は事故を起こしそうな雰囲気があった。」という内容のものがある。現場で発生する事故には様々な原因・要因があるため、全ての事故発生現場に対しそれらの言葉が当てはまるという訳ではないと思うが、現場の状況・環境の良し悪しが事故発生に大きく関わってくることは間違いないのだろう。現場の状況・環境が良ければ事故発生の可能性を下げることができ、悪ければ事故発生のリスクが高まるということである。そのため現場では様々な方法で現場の状況・環境をより良いものとしようとする活動が行われているが、今回は当社で行っている6S運動について改めて考えてみようと思う。

6S運動とは作業所における安全衛生管理のために推奨されているものである。内容としては整理（必要なものを残し、不要なものを処分する）、整頓（必要なものを使いやすいように置き場を決める）、清掃（作業場周辺や身の回りをきれいな状態に保つ、メンテナンスをする）、清潔（「整理」「整頓」「清掃」を意識して汚れのない状態を維持する）、しつけ（ルールや規律を守るのが皆の習慣になるようにする）といった一般的に5S活動といわれているものに、「しつこく」という要素を加えたものとなっている。

5S活動を行う目的には、「無駄をなくして作業効率を上げること」、「従事者が働きやすい環境をつくること」、「安全性を高めること」、「一人ひとりがルールを守って動ける風土を作ること」といったものが挙げられる。また、5S活動を行い、定着させることでもたらされるメリットとしては、「作業効率の向上が図れること」、「必要な作業のみに集中できるようになること」、「コストを削減できるようになること」、「作業中の安全性が高まること」、「商品やサービスの質が良くなること」、「ストレスが減り快適に働けるようになること」、「チームワークが向上すること」といったことが挙げられる。

5S活動の内容の中には難しいことは含まれていない。どの現場でも当たり前のように行われているものばかりであると思われる。しかし、上記のようなメリットを得られるまで5S活動が定着している現場は少ないのかもしれない。私も配属された現場で必要な物やデータの所在が分からず無駄に時間や労力を費やしてしまい、行いたかった作業が計画通りに行えなかったことがある。なぜ5S活動の定着がなされないのかを考えてみると、5S活動の目的を認識しないまま実施していることや明確な決まり事やルールが定められていないことが大きな原因だと思われる。作業所全員が目的やメリットを把握し、明確なルールのもとで行うことで活動に対してもモチベーションが生まれ、活動の習慣化・定着につながるのだと考える。もちろん上記のように活動を行っても上手くいかない可能性もあるだろう。その際は、定着するまで「しつこく」活動を続けることが重要であると考えられる。

6S運動を定着させることができ、論文内で述べたようなメリットや効果を得ることができれば現場での事故発生のリスクを低減させることができるだろう。そのために必要なことは、行う活動に対し目的意識をもって行動することであり、これは6S運動以外の活動にも当てはまるだろう。現場で何らかの活動を始めるとき、活動を見直し再度始める際は何のための活動なのか、その認識を全員でもつことから始めることが重要だろう。まずは内容に難しいものがない6S運動から始めてみるのが良いのかもしれない。

COOL CHOICE

中日本支社 土木工事部 守山 雅司

先日、ニュースで知った事だが、地球温暖化の影響でウミガメはほぼすべてメスになってしまうようだ。ウミガメの性別は孵化した時のその場所の砂の温度によってきまり、温度が28℃以下だとオスになり、30℃以上だとメスになる。地球温暖化が進む現在は、気温、海水温、砂の温度が高くなり30℃の壁を越えてメスばかりが生まれてくるとゆうわけだ。実際、オーストラリアの特に気温が高い場所で生まれたウミガメの99%以上がメスであったとの調査結果が出ている。これはただウミガメがメスばかりになってしまう…といった話で終わる事ではない。このままではオスとメスの圧倒的な偏りにより個体数の激減や絶滅の可能性が出てくる。最近の夏は35℃以上の猛暑日となる日が頻繁にあり、我々の建設業のような外で仕事をする者にとっては体がきつい。しかし、ウミガメにしてみればきついどころではなく、地球温暖化により絶滅の危機にまでさらされているのだ。

そんな話もあり、地球温暖化対策の重要性を再認識したわけだが、いったいどんな取り組みを行っているのかを調べたところ、政府を挙げての国民運動『COOL CHOICE』にたどり着いた。『COOL CHOICE』については、会社からの通達やポスター等で言葉だけは知ってはいたが、はっきりと内容までは知らなかった。『COOL CHOICE』は、政府が2015年から立ち上げている運動で、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など、日々の生活の中で、あらゆる「賢い選択」を促す取り組みとして開始した。この文章だけを読んでいるとなんだか面倒くさいことをしなければならぬのか、と思えるが、実際に我々がやることは、普段の生活をする中でちょっと工夫をしながら無駄を無くし、環境負荷の低い行動を「選択」することである。こうした行動の積み重ねでライフスタイルに起因する二酸化炭素の排出削減に貢献していこうとゆうわけだ。SDGsの『13.気候変動に具体的な対策を』にもリンクしている。具体的にどんなことができるのかを分かりやすくまとめたものとして、「ゼロカーボンアクション30」が掲げられている。この「30」項目のできるところから取り組んでいこうとしている。

個人の生活の中で実行することを考えるのも大切だが、ここでは工事現場においては、どんなことができるのかを考えてみたい。まず、「エネルギーの節約・転換」の分野ではどんなことができるだろうか。「1.再エネ電気への切り替え」としてできることは、例えば、工事現場内の危険個所に設置する工事灯や照明灯を太陽光蓄電のものにする。こういったことは工事現場でも早い内から転換できていたことだ。もう一步踏み込んで、現場休憩所や詰め所の電気を太陽光発電で賄うことができる。レンタル業者からも多数出ているのでこれからは常套化するかもしれない。イメージアップや社会貢献にも繋がる。「CO₂の少ない交通手段」の分野はどうだろう。「16.ゼロカーボン・ドライブ」としてできることは、バッテリー式建機の採用である。しかし、実用化されているものは少なく、一般的ではない。脱炭素建機ではないが、CO₂削減としてハイブリット建機を採用することができる。通常重機の燃費に比べて約25～40%削減できるとのことだが、今はまだ圧倒的に通常重機の流通が多い為、ハイブリット建機を見ることは珍しい。建機についてはちょっとした工夫で何とかなる問題ではなさそうだ。「太陽光パネル付き・省エネ住宅」の分野で「14.働き方の工夫」としてできることは、働き方改革にもつながる項目である。実施できることとしてオンラインの活用だ。会議や集会をオンラインで行うことは、移動時間の節約のみならずCO₂削減にも大いに効果がある。図らずもCOVID-19対策として、オンライン会議は浸透してきた。工事現場においても、発注者の立会や早急な対応事項はオンラインによって対処できるのではないだろうか。「3R(リデュース、リユース、リサイクル)」の分野においてはやはり「27.ごみの分別処理」の徹底である。工事現場においても現場事務所内にもポスターが掲示されており、ごみの分別は当然行わなければならない当り前の項目である。分別することにより資源の活用にもなり、且つ処分費の低減にもなる。しかし、このできて当然と思える分別も、なかなか完璧に行うことができていない。これは個々のちょっとした分別意識への気の持ちようで徹底されるものだろう。これこそ『COOL CHOICE』賢い選択である。

地球温暖化により生態系が崩れ、絶滅の危機に瀕している動物もいる。又、異常気象により未曾有の災害に見舞われている地域もある。今はまだ、自分の身に降りかかっているわけではないが、いつでも、どこでも自分や自分の家族が災難に遭遇するリスクがあり、地球温暖化対策は待ったなしの状況にある。建設現場でも私生活でも、できることから賢い選択を心がけていきたい。



「その慢心ちょっと待って!!」
株式会社ナミト 飯田 あゆ美



「みんなもすぐできる省エネ」
海外支店 今関 朔 (阿南 正典 家族)

優秀賞



「安全パラレルワールド」
西日本支社 鷗飼 真行

優良賞



「安全第一」
中日本支社 中才 麻理亜

優秀賞



「守りたい命を育くむ星」
東日本支社 中村 菜々美 (中村 敦 家族)

優良賞



「ゴミは小さく少なく！ やればできる！」
東日本支社 仁木 由利子

本部だより

1. 安全祈願

令和5年1月25日（水）に、明治神宮にて櫻井名誉会長、佐々木会長、藤澤副会長、本部事務局が参加し、今年一年の安全祈願を厳かに執り行いました。



2. 安全衛生環境パトロール

安全協力会本部役員による特別パトロールを実施しました。



パトロール実施状況



昼礼時安全講話（櫻井名誉会長）



パトロール参加者一同

<建築>大和金沢文庫 M 作業所

- 1) 実施日：令和4年12月22日（木）
- 2) 巡視作業所：東日本支社（建築）大和金沢文庫 M 作業所
- 3) 発注者：大和ハウス工業株式会社
- 4) 工事概要：学生向け集合住宅新築工事
- 5) 巡視者：櫻井名誉会長（代表取締役専務執行役員）、藤澤副会長（東京支部長）
岡山本部事務局長（本社環境安全品質部長）
廣瀬支部事務局長（東日本支社環境安全品質部次長）



工事ヤード全景



パトロール開始時打合せ



パトロール実施状況



昼礼時安全講話（佐々木会長）



パトロール参加者一同

<土木>地整大瀬橋下部作業所

- 1) 実施日：令和5年3月1日（水）
- 2) 巡視作業所：西日本支社（土木）地整大瀬橋下部作業所
- 3) 発注者：国土交通省九州地方整備局
- 4) 工事概要：橋梁下部構築工事 ニューマッチクレーソン基礎工
- 5) 巡視者：櫻井名誉会長（代表取締役専務執行役員）、佐々木会長
 山川副会長（大阪支部長）、岡山本部事務局長（本社環境安全品質部長）
 亀井支部事務局長（西日本支社環境安全品質部次長）

支部だより

東京支部

1. 安全祈願

令和5年1月18日（水）に、明治神宮にて参拝人数が制限される中、支社幹部、安全協力会支部役員の代表者が参加して今年一年の安全祈願を厳かに執り行いました。

明治神宮は明治天皇と皇后の昭憲皇太后をおまつりする神社です。およそ70万平方メートルの広大な鎮守の杜は、「永遠の杜」を目指して造成された人工林です。



2. 安全衛生環境パトロール

令和4年11月16日（水）および、令和5年2月7日（火）に、労働災害の撲滅を図る為、建築4、土木2、計6作業所を対象に、合同安全衛生環境パトロールを実施し、安全指導を行いました。パトロール実施後、東京支店にて、支社幹部の方にも参加して頂き、報告会を実施し、改善点は改善をお願いし、良好な点は好事例として水平展開をお願いしました。



<建築>フジパン下妻2作業所（整列）



<土木>防衛厚木推進作業所（現場巡視）



＜建築＞王子船橋工場作業所（安全訓示）



パトロール後の報告会

3. 教育啓蒙活動

新たに安全教育用DVDを購入しました。今後とも視聴覚教育、特別教育、等を実施し、安全意識の向上に役立てて参りたいと思います。安全教育用DVDは、作業所を通じて貸し出ししております。



4. 今後の活動予定

- 4月 安全祈願（熊野神社）
- 6月 支部総会（全電通労働会館（全電通ホール））
- 6月 合同安全衛生環境パトロール

名古屋支部

1. 安全祈願

令和5年1月14日（土）に、名古屋支部 森屋支部長他 副支部長や理事、支社からは田中常務執行役員中日本支社長以下幹部、そして協力会本部より櫻井名誉会長、岡山事務局長も参加していただき、猿田彦神社に今年の安全を祈願してきました。3年ぶりにコロナ前の規模で実施できました。



2. 安全衛生環境パトロール

令和4年12月8日（木）に、土木・建築各々1現場ずつパトロールを実施しました。現場巡視後には、事故防止活動や衛生管理などについて現場の対応や、現場巡視結果などの講評を行い、今後の事故防止を実現すべく有意義なパトロールとなりました。



パトロール参加者一同



現場巡視状況

<土木> 高速一宮拡幅



パトロール参加者一同



現場巡視状況

<建築> 澤田病院

大阪支部

1. 安全祈願

令和5年1月19日(木)に、三輪明神 大神神社にて山川支部長をはじめ大阪支部役員(9名)と支社幹部(12名)、本部より岡山事務局長も参集頂き、今年一年の安全祈願を厳かに執り行いました。



2. 支部活動

労働災害の撲滅を目指し、毎月の支社安全衛生環境パトロールに参画して、安全指導を行っています。また、令和4年10月20日(木)に、第2回合同安全衛生環境パトロールを実施しました。山川支部長をはじめ大阪支部役員全員参加で2班編成し、建築土木各1作業所、計2作業所に対し実施し、安全指導・要望事項を今後の安全管理に生かしていただくようお願い致しました。3月には佐々木本部長、岡山本部事務局長をお迎えし、年度末労働災害防止強調期間に伴う支部、本部合同パトロールを実施致しました。



<建築>住之江物流



<土木>地整西脇 PC



<土木>高速御園耐震(支部本部合同)

3. 今後の予定

- 4月：新年度安全祈願(難波八坂神社)
- 5月：第1回理事会
- 6月：支部総会、第1回合同パトロール

※大日本土木株式会社の人事異動により、名誉会長、本部理事1名、本部監事1名が変更になりました。

大日本土木安全協力会 本部役員名簿 (2023年4月1日現在)

本部役職名	会 社／役職名	氏 名	備 考
名誉会長	大日本土木株式会社 取締役 常務執行役員	竹 田 勝 一 [*]	
会 長	児玉建設株式会社 代表取締役	佐々木 邦衛	
副 会 長	株式会社森田組 代表取締役	藤 澤 徹	東京支部 支部長
”	株式会社森屋製作所 代表取締役社長	森 屋 泰 則	名古屋支部 支部長
”	株式会社山川 代表取締役	山 川 数 也	大阪支部 支部長
本部理事	成友興業株式会社 取締役副社長執行役員	萩 森 孝 紀	東京支部 副支部長
”	三生設備株式会社 代表取締役社長	細 井 芳 人	東京支部 副支部長
”	株式会社岡崎組 代表取締役	岡 崎 弘 志	名古屋支部 副支部長
”	株式会社酒井田工務店 代表取締役社長	酒 井 田 雅 一	名古屋支部 副支部長
”	株式会社浅田鉄筋 代表取締役社長	浅 田 宜 彦	大阪支部 副支部長
”	株式会社村岡 代表取締役	村 岡 順 次 郎	大阪支部 副支部長
”	大日本土木株式会社 東日本支社 環境安全品質部次長	廣 瀬 淳 司	東京支部 事務局長
”	大日本土木株式会社 中日本支社 環境安全品質部次長	土 田 芳 典 [*]	名古屋支部 事務局長
”	大日本土木株式会社 西日本支社 環境安全品質部次長	亀 井 利 勝	大阪支部 事務局長
本部監事	株式会社 横内工業 取締役相談役	横 内 眞	
”	大日本土木株式会社 本社 管理本部 総務部長	前 田 茂 浩 [*]	
本部事務局長 本部理事	大日本土木株式会社 本社 環境安全品質部長	岡 山 孝	



建設キャリアアップシステム(CCUS)とは

建設キャリアアップシステム

Construction Career Up System

CCUSとは

- 技能者の保有資格・社会保険加入状況や現場の就業履歴などを業界横断的に登録・蓄積して活用する仕組み

CCUSの目的

- 技能者の能力・経験等に応じた適正な処遇改善につなげる
 - 技能者を雇用し育成する企業が伸びていける業界環境をつくる
- ➔ 若い世代が安心して働き続けられる建設業界を目指す

Copyright (C) 2018 一般財団法人建設業振興基金 All Rights Reserved.



CCUSの目的

一般財団法人
建設業振興基金

技 技能者の就業履歴を蓄積し、保有資格などと合わせて能力を評価し、処遇の改善を図る



技 技能者のキャリアパスを明確にして若い世代の
事 入職者を増やす



事 優秀な技能者を抱える専門工事業者の施工能力を見える化して競争力を高め、かつ業界の健全化を図る



毎日320円退職金が貯まる!



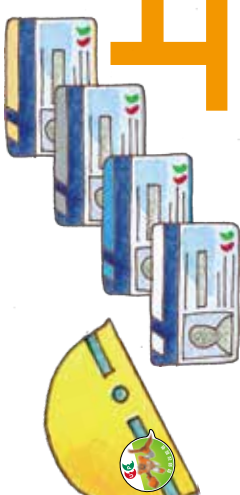
CCUSカードを1日1回現場でタッチすれば、**建退共***の退職金320円が貯まります。



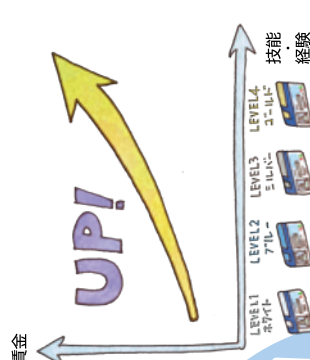
国や地方公共団体の工事なら全ての現場が対象。民間工事でも日建連会員企業の現場なら原則として対象になります。例えば、掛金1日320円で、1か月21日就労した場合、10年(120月)で約90万円の退職金が給付されます。

*1: 別途建退共への加入及び電子申請利用申込み、雇用企業からの請求が必要です。
*2: 順次建退められるので、開始時期は会員企業・現場により異なります。

賃金が上がる!



カードの色(技能や経験)に応じて上昇していく賃金の目安づくりが行われています。

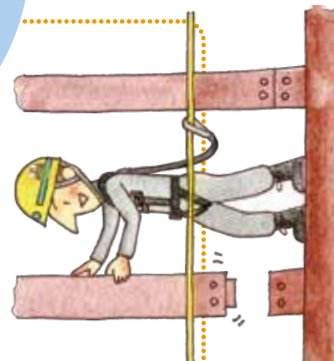


日建連会員企業の現場では、この目安を尊重して下請企業への支払いが行われるので、賃金上昇のみちが開けます。この技能や経験を蓄積するのが、CCUSカードです。

*対象となるのは、レベル別証によりカードの色が変わる職種(現在は38職種・今後拡大予定)です。

こんなに
お得っ!
CCUSカードを
今すぐ手に入れよう!

国は民間工事を含む全ての工事でCCUSを完全実施することを目指しています。



国のモデル工事や地方公共団体などの取組がすでに始まっています。そして、CCUSカードを持つ技能者を多く雇う会社が増え、カードを持つ技能者の働くチャンスが増えます。CCUSカードを持つことが業界のスタンダードになります。



将来は、CCUSカードさえあれば、各証明の携帯が不要になります。

かさばって、現場に持っていくのが大変な資格証・受講証。

仕事のチャンスが広がる! CCUSカード1枚で資格を証明!

申請はコチラから!

パソコンなら「CCUS 技能者申請」で検索。

CCUS 技能者申請

search

https://www.ccus.jp/p/application_ginousya

スマホ・タブレットからは、QRコードを読み込みます。



CCUSカード Q&A

Q1. CCUS登録に締切り・期限はあるの?



Answer.1

登録に期限はありませんが、早く登録したほうがメリットを受けられる時期が早まります。

Q2. システムに登録されるとどんな意味があるの?



Answer.2

みなさんの技能や経験を正しく評価して処遇を改善し、現場の品質向上と作業の効率化も目指しています。国が主導し建設業界が一丸となって推進する取組です。

Q3. CCUSカードは、どうやって使うの?

Answer.3

現場に設置してあるカードリーダーや、小規模現場では顔認証システム等を使用して就業履歴が残せます。現場にカードリーダーがない、カードを忘れた場合でも元請に申請して承認をもらえば、履歴は蓄積されます。

技能者の皆さん

持っていますか?



～技能者登録のご案内～

100万人突破!

急いで登録しよう!



建設キャリアアップシステム

*2022年10月基準

2023年2月改訂

申請から利用まで カンタン手続き! 3ステップ

STEP 1

申請方法は3通り!



① インターネット

② 認定登録機関での申請

※お近くの認定登録機関は、CCUSホームページでご確認ください。

③ 事業者による代行申請

※代行申請については、所属会社にお問い合わせください。



STEP 2

カードが手元に届く!



STEP 3

現場ごとに置かれたカードリーダーなどで、就業履歴を蓄積!



▶ カードは原則10年有効

▶ 立場や作業内容が蓄積される

▶ 経験と技能の向上がカードの色に反映



▲ 実際の運用シーン

リーフレット発行元



一般社団法人 日本建設業連合会
JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS

東京都中央区八丁堀2丁目5番1号
東京建設会館8階

Web: <https://www.nikkenren.com/>

● CCUSの運営主体



(建設キャリアアップシステム事業本部)

東京都港区虎ノ門4丁目2番12号
虎ノ門4丁目MTビル2号館

Web: <https://www.ccus.jp/>



技能者申請・カード発行等に関するお問い合わせは、上記建設業振興基金ホームページのお問合せフォームからお願いたします。
(トップ > CCUS > 説明会・サポート > お問い合わせフォーム)